

こたえ はい
灰かぶり

灰かぶり (グリムの話)

昔、あるお金持ちの家に、心のやさしいむすめがいました。むすめのお母さんは病気でなくなり、家には、ママ母と、二人のママ姉がやってきました。

ママ母たちは、むすめに家の仕事をすべておしつけ、夜はだんろのそばの、灰の中でねむらせました。それで、むすめは「灰かぶり」とよばれるようになりました。

灰かぶりは、毎日お母さんのおはかへ行つて、なみだを流しました。おはかのそばには、灰かぶりが植えた木が育ち、白い小鳥がやってきて、灰かぶりの願いをかなえてくれるのでした。

ある日、お城で、三日間の舞踏会が開かれることになりました。ママ母は、灰かぶりを行かせませんでした。小鳥が、きれいなドレスとくつを落としてくれました。お城へ行くと、王子様は、灰かぶりとおどりました。

三日目の夜、灰かぶりは、急いで帰るとちゅう、階段に金のくつを片方のこしていきしました。王子様は、そのくつがぴったり合うむすめをさがし、ついに、灰かぶりを見つけ出したのです。

1 むすめが「灰かぶり」とよばれるようになったのは、どうしてですか。

だんろのそばの、灰の中でねむらされていたから。

2 灰かぶりの願いをかなえてくれたのは、何ですか。

ア ママ母

イ 白い小鳥

ウ 王子様

3 灰かぶりが、階段にのこしていったのは何ですか。

金の



4 王子様は、どのようにして、灰かぶりを見つけ出しましたか。

金のくつがぴったり合うむすめをさがした。